HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日韓語の副詞終了文に対する対照研究 ： 副詞の感動詞的用法について
Author(s)	裴, 明文
Citation	研究論集, 17, 119（左）-134（左）
Issue Date	2017-11-29
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgsl.17.l119
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67978
Type	departmental bulletin paper
File Information	17_007_pei.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgsl.17.l 119

日韓語の副詞終了文に対する対照研究

── 副詞の感動詞的用法について ──

裴　　明　文

要　旨

副詞終了文とは（弁護士を目指しているのなら，事態把握に役立つぞ，きっと。）のように，発話の文末が副詞で終わっている文のことである。今までの考察で，日韓両言語の副詞終了文には反復型，倒置型，述語省略型，感情表出型，四つの共通のパタンがあることが分かった。この中で感情表出型のみが，（お母さんもうやめてよ，もう。）のように，用いられた副詞に脱語彙化現象が起こって，本来の副詞の用法と異なる働き傾向が見られたため，筆者はこれを「感動詞的用法」と判断した。本研究の目的は，日韓副詞終了文における，「感情表出型」に使われる副詞の用法を，両言語とも新たに「感動詞的用法」として解釈できるかについて，対照考察することである。本研究では，日韓語副詞終了文で用いられた副詞を対象に，「脱語彙化現象」が起こっているか，感動詞的用法で用いられた場合「終助詞と併用」できるかを一貫して考察することで，「感動詞的用法」として解釈できるかを解明したい。

キーワード：日韓両言語　副詞終了文　感情表出型　副詞の感動詞的用法

1．はじめに

本稿は，日韓副詞終了文における，「感情表出型」に使われる副詞の用法を，両言語とも新たに「感動詞的用法[1]」として解釈できるか，対照考察することが目的である。

副詞終了文とは，裴（2014）で言及した用語であり，次のように簡単に説明している。日本

[1] 本稿では日韓語の相違点を浮き彫りにするため，副詞の感動詞的用法の定義が従来の先行研究と一線を画する。本稿で扱う副詞の感動詞的用法とは副詞本来の意味を無くして，感動詞の役割をすることを指す。

語と韓国語は，述語を文末に置くのが普通である。これは，ある程度の語順変化は甘受する発話文でも，同じである。話者の意図をはっきり伝えるために，文章の最も核心である，述語を言わないと会話が曖昧になるからである。しかし，日韓両言語では，会話文が述語ではなく，通常述語の役割を果せない，副詞で終わる現象が見受けられる。そして，このような現象はかえって会話をより円滑に進められる効果がある。

このような文のことを，副詞終了文と定義し，この副詞終了文には，反復型，倒置型，述語省略型，感情表出型の四つのパタンがあることが分かった。さらに，この四つのパタンを二つに分けると，「反復型，倒置型，述語省略型」と「感情表出型」に分けることができる。前者は，副詞終了文で用いられた副詞の意味が変らないことに対して，後者の感情表出型における副詞は，本来の意味用法で用いられているとは解釈しにくい場合がある。

以下に，副詞終了文の感情表出型の例を示す。

（1）A：今週はずっと雨だったね。
　　B：来週も雨が続くみたいたよ。
　　A：本当梅雨の時期は嫌だな。
　　B：そうだね，雨にはうんざりだよ，まったく。↓

（1）の副詞「まったく」は，文における述語を修飾しているよりは，「雨にうんざりしている」話者の気持ちを踏まえて，さらにその状態における話者の不満の感情を表しており，「まったく」自体が意味的に文の中心（述語）から離れた，ある程度独立した形式のように思われる。

本稿では，これを「感動詞的用法」であると呼び，副詞終了文の感情表出型における副詞の主な用法であると解釈して，対照言語学的論点から考察を行う。

2．先行研究

本節では，副詞の感動詞的用法に関しての先行研究と本稿の立場について述べる。

実例の考察の結果，副詞終了文の感情表出型で用いられた副詞は，日本語には「まったく」，「もう」があり，韓国語には，「jinjja　本当」，「jeongmal　本当」，「aju　とても」，「jjom　すこし」，「maennal　毎日」があることが分かった。ここでは，日本語の「まったく」，「もう」に「ちょっと」[2] を加えて，三つの副詞に関わる先行研究を簡略に紹介する。

[2]　実例の考察では，「ちょっと」の実例はまだ見当たらないが，筆者の判断で本稿の考察に入れる。

2.1.「まったく」について

鈴木（1996）は,「まったく」を「全然」と関連させながら，その用法の推移と副詞としての特性について述べている。鈴木（1996）は「まったく」が「状態副詞・程度副詞・陳述副詞の，いずれの用法も併せ持つ」とし，次の５点を指摘している。

①状態副詞としての，十全性を表す本来の用法も見られる。
②程度副詞としての用法は,普通の程度副詞とはかなり異なる。「十全性副詞」とでも呼んで，別に扱うべきであろう。
③陳述副詞としての用法は，肯定・否定いずれの場合にも見られる。
④肯定表現との結び付きが強い。感動詞的用法も，そこから生まれたと見ることができる。
⑤話し手の主観に支えられた，誘導副詞的用法は，肯定・否定のいずれにも見られる。

以上のように，鈴木（1996）は,「まったく」の感動詞的用法までの用法の推移が指摘されている。しかし，用いられる副詞の現れる位置については，言及していない。さらに，感動詞的用法で用いられる場合，否定表現が多いという本稿の立場と異なる。

2.2.「もう」について

渡辺（2001）では,「もう」の意味用法を「Ⅰ時間表現の用法」,「Ⅱ数量表現の用法」,「Ⅲ感情表現の用法」に分け,「（Ⅱ）（Ⅲ）も時間がらみの表現であって，その基本線になるのは（Ⅰ）である」とし，（Ⅰ）から（Ⅲ）への意味的な連続性について指摘している。

さらに，渡辺（2001）では,「もう」の多義的な意味・機能とそれらの間に見られる連続性を指摘しつつ,「なんてことするのよ，あなたって人はもう」のように感動詞的に用いられる場合があると述べられている。この用法は基本的に本稿の立場と一致しているが，渡辺（2001）では感動詞的に用いられる場合，元の副詞の意味の変化については言及していない。

2.3.「ちょっと」について

中道（1991）は，いずれの用法も「くだけた話しことば的な文体」であることを強調しながら,「ちょっと」の意味用法を次のように分けている。

①数量が少ないことを表す用法
②程度が低いことを表す用法
③程度が高いことを表す用法
④呼び掛け等として用いる用法
⑤伝達態度をあいまいにする用法

⑥間つなぎの用法

中道（1991）は，「①は数量に関する用法，②は程度に関する用法で，いずれも命題内容に情報を付加する用法であるが，この①②の区別は連続的で，どちらとも分けがたい例もある。③～⑥は数量・程度に関する命題内的意味を含んではいても，それは次第に稀薄になり，逆に，なんらか判断態度，伝達態度を示すことが主な機能となってくる」とし，①②の「数量・程度に関する命題内的意味」が稀薄になってくることによって，③～⑥の用法が生じることを指摘している。しかし，中道（1991）で指摘している「ちょっと」の感動詞的用法は，④呼び掛け等として用いる用法であり，本稿の立場とは異なる。

2.4. 「まったく」「もう」「ちょっと」について

「まったく」「もう」「ちょっと」の感動詞的用法を比較研究したのは，全（2014）が挙げられる。全（2014）では，現代日本語と明治期の日本語の実例を基に，「もう」，「まったく」，「ちょっと」の感動詞的用法を研究した。しかし，全（2014）では「もう」，「まったく」，「ちょっと」は日常会話では感動詞的用法で，よく用いられると指摘つつも，構文的位置に関しては，文頭も文末も相違点はないと述べている。この点は，本稿の立場と異なる。

2.5. 本稿の立場

本節では，（1）を分析しながら，「副詞の感動詞的用法」についての本稿の立場を述べる。

（1）A：今週はずっと雨だったね。
　　B：来週も雨が続くみたいたよ。
　　A：本当梅雨の時期は嫌だな。
　　B：そうだね，雨にはうんざりだよ，まったく。　（再掲）

まず，副詞の基本職能から見てみよう。加藤（2006）では『副詞は，原則として「活用を持たない自立語で用言を修飾する語を指す。しかし，副詞以外の語でも連用修飾を行うことが可能であり，副詞が名詞や他の副詞を修飾することがある』と述べた。言い換えれば，副詞は文の中で必ず修飾機能で使わなければいけない。しかし，（1）を見ると副詞「まったく」に修飾された，用言或いは語句は見当たらない。つまり，この文章で「まったく」は副詞としての基本職能をしていない。

次に，会話文の中で「まったく」がどんな役割をしているのかみてみよう。「まったく」の意味を調べてみると以下である。

「まったく」《「副」 形容詞「まったい」の連用形から》

①完全にその状態になっているさま。

②打ち消しの語に伴って，完全な否定の意味を表す。

③ある事実・判断を強調する気持ちを表す。

④(「まったくだ」「まったくです」などの形で）話し言葉で，相手の言葉を受けて，それを強く肯定または否定する意を表す。

⑤(「まったくの」の形で）話題になっていることについて，その通りの，文字通りの，嘘偽りなしのなどの意を表す。

「まったく」の意味を辞書で調べると以上の５つがあるが，（１）ではどれも当てはまらない。④の「話し言葉で，相手の言葉を受けて，それを強く肯定または否定する意を表す。」と一致する見方もあるが，本稿では一致しないと判断する。理由は，副詞が現れる位置である。例えば，（１）の回答文が「まったくそうだね，雨にはうんざりだよ。」または「そうだね，雨にはまったくうんざりだよ。」の場合，「まったく」は（相手の言葉を受けて，それを強く肯定。）する意味になる。

しかし，（１）では，「まったく」が文の最後に置かれているため，この回答文は一種の言い回しになってしまうのだ。実際，この「まったく」は日常会話でよく「ったく」に変わって使われることが多い。（１）では話者が梅雨に対する嫌悪感を「まったく」で表出していると推測できる。

以上のように，本稿と従来の副詞の感動詞的用法との違う点は二つある。

一点目は，副詞が現れる位置である。本稿の考察対象は文末に現れる副詞に限る。

二点目は，副詞が感動詞的用法で用いられる場合，副詞の意味変化の有無である。

また，本研究では，感情表出型で用いられる副詞が，感動詞的用法である認定基準を設ける。それは，副詞の「脱語彙化現象」と「感動詞と終助詞」との関係である。つまり，用いられた副詞に脱語彙化現象が起きているか，感動詞的用法で用いられた場合終助詞と併用できるかを一貫して考察する。

3. 日本語の感情表出型における副詞の感動詞的用法

3.1. 単一副詞

日本語の感情表出型で用いられる副詞は「まったく」，「もう」，「ちょっと」がある。

次の例文をみてみよう。

（2）A：聞いた，あいつまたやらかしたって。
　　B：マジか，あいつ使えないな〜，まったく。

（3）A：今週も来週も土曜日，補講らしいよ。
　　B：えっ，勘弁してよ，もう。

上の例文（2），（3）で使われた副詞「まったく」と「もう」は，全て文の最後に置かれて感動詞的役割をしている。さらに，本来の副詞の意味がなくなり，その代わりに「がっかり」，「怒り」，「嘆き」など，話者の感情を控えめに表す表現になっている。本来なら，感情をもっと露骨に表せる「最悪」，「最低」，「駄目」のような名詞があるが，敢えて副詞を用いるのは，あまり言い過ぎないように自分の感情を抑えながらも，自分の感情を上手に表せるからであると思われる。

つまり，上で述べたように本来の副詞の意味がなくなるというのは，「まったく」と「もう」が文末に置かれる場合，脱語彙化現象が起きていると考えられる。大堀（2005）では「自立性を持った語彙項目が付属語となって，文法機能を担うようになるケース」を脱語彙化と規定した。「まったく」と「もう」は本来，副詞であるため自立語であるが，（2），（3）では，文末に置かれて自立性を失った付属語になり，述語という文法機能を担うと思われる。

さらに，このように脱語彙化現象が起きていると副詞は独立語になり，「まったくよ」「まったくぞ」「もうよ」「もうの」のように，他の終助詞と併用で使うことは不可能である[3]。これは感動詞と非常に似ている。感動詞も文中では，始終独立語として他の終助詞と併用で使うことは不可能である。以上のことをまとめると，「まったく」と「もう」は文末に置かれた場合，感動詞的用法と言えよう。

しかし，以下のように，副詞の現れる場所が変った場合は，感動詞的用法が無くなる。

(2´)「マジか。あいつまったく使えないな。」
(3´)「えっ，もう勘弁してよ。」

(2´)，(3´）の場合は，「まったく」と「もう」が，後続の用言を修飾するので元の副詞の機能に戻る。(2´）では，副詞「まったく」の本来の意味（ある事実・判断を強調する気持ちを表す）で用いられているため，「あいつは使えない」という事実を修飾するのみで，話者の「がっかりする」感情は表していないことになる。(3´）も副詞「もう」の本来の意味（同じ事をこれ

[3] (2) の場合，「まったくね」「まったくさ」，(3) の場合，「もうね」「もうさ」は併用可能であるが，感動詞的用法ではなくなるので本研究の対象外になる。

以上繰り返したくないという気持ちを強調する）で「勘弁してよ」という述語を修飾するのみで，話者の「嘆き」の感情は表していないことになる。つまり，脱語彙化現象が起きていない。従って，副詞の感動詞的用法ではないと考えられる。

また，（2），（3）は（2´），（3´）の倒置文であるという見方もある。通常，倒置法の機能は場所を変えることによって強調の役割をすることである。しかし，（2），（3）を見ると，強調ではなく，反対に和らげる文になっている。例えば，（2´）の「あいつ」が話者とあまり親しくない仲の場合は，「あいつまったく使えないな。」と言えるが，話者と親しい仲の場合は，「あいつ使えないな，まったく」と発話することで，「使えないが，仕方ない」という和らげる意味になる。

さらに，「まったく」と「もう」は，感動詞的用法の場合，元の副詞の意味を完全に失うため，以下のように，相互に言い換えができる。

（2″）マジか。あいつ使えないな，もう。
（3″）えっ。勘弁してよ，まったく。

以上のように，「まったく」，「もう」は感動詞的用法で用いられる場合，元の副詞の意味を完全に失うため，文の意味を和らげると同時に話者の感情も表すことができる。

次に，「ちょっと」が用いられた感情表出型を見てみよう。

（4）A：あの人彼女いながら，他の人と浮気しているよ。
　　B：それひどくない↑，ちょっと。

（4）で用いられた副詞「ちょっと」は，「まったく」，「もう」と比べると若干異なる。上述のように，「まったく」，「もう」文末に置かれて感動詞的用法で用いられる場合，副詞本来の意味を失う。しかし，「ちょっと」の場合は，副詞の意味がなくなるのではなく，変化をする。「ちょっと」の本来の意味は「少し」であるが，ここでは逆の「非常に」の意味になってしまう。さらに，このように意味が変化する場合は，「まったく」，「もう」と異なり，現れる場所に制限がない。中道（1991）では，「これでも昔はちょっと知られたプレイボーイだったんだぞ。」のように，この現象を「単独の副詞的用法」と述べている。これは筆者の立場と一致する。

また，「ちょっと」が文末に置かれた場合，「まったく」，「もう」で見られた，脱語彙化現象が起きていない。「ちょっと」の意味が変化したのみで，失ってはいないことになる。さらに，（4）の場合，「ちょっと」の後に終助詞「ね」を付けても意味は変らないので感動詞的用法と見なすことはできない。しかし，「ちょっと」が文末に置かれる場合，副詞の元の意味が変り，その上，相手を非難する感情は表しているので感情表出型ではあると言えよう。

（4）　それひどくない↑ちょっと。
(4´)　それちょっとひどくない。↑
(4″）ちょっとそれひどくない。↑

上の三つの例文を比べると，(4´)，(4″）では「ひどい」の程度を強調する副詞の用法しかないが，（4）では，強調する副詞の用法と話者の感情を表す感動詞的用法が共に働く。

以上の，「まったく」，「もう」，「ちょっと」が用いられた感情表出型の例文は，すべて否定の評価感情を表す例文である。

次は，肯定の評価感情を表す例文を見てみよう。

（5）A：この間の連休何してた？
B：ディズニーの最新映画を観に行ったよ。
A：どうだった？
B：とても良かった。特に最後のシーンの感動することと言ったらもう～。（もう，言うことなし）

（6）（人が集まっている所で，隣にいた友人にたくさん褒められた時）
「やだな，もう」

（5）と（6）は，一見副詞の感情表出型に思われるが，実際は述語省略型である。述語省略型とは，文末に副詞を置くことで後続の述語の部分を省くことができる副詞終了文である。従って，（5）と（6）は，前後の文脈で省略された述語の復元が可能である。（5）は前後の文脈で推測すると，話者がとても感動しているので「もう，言うことなし」，（6）はシチュエーションから推測すると，話者が照れているので「もう，やめて下さい」などに復元できる。

以上のことをまとめると，日本語の場合，文末が「まったく」「もう」で終わる感情表出型は，すべて副詞の感動詞的用法である。但し，この用法は否定の評価感情を表す場合に限る。「ちょっと」は感情表出型ではあるが，「まったく」「もう」と異なって，文末に置かれた場合，脱語彙化現象が起きない。さらに，他の終助詞との併用も可能であるため，感動詞的用法ではないと判断する。

3.2. 複合副詞

日本語の場合，代表的な例は「まったくもう」と「本当にもう」がある。

（7）A：ごめん，お金貸して。
　　B：また，昨日も貸したじゃん。
　　A：パチンコで負けちゃった。今日は勝つぞ。
　　B：えっ，勘弁してよ，まったくもう。（本当にもう）

（7）で用いられた副詞は「まったく＋もう」と「本当に＋もう」である。「まったく＋もう」の場合，前節で述べたように，両方単一でも感動詞的用法が可能なので，複合しても意味はあまり変わりない。ただ，単一で使うより，複合の方が感情の程度を増す役割をしている。さらに，「まったく＋もう」の場合，両方同時に脱語彙化現象が起きて副詞本来の意味をすべて無くしている。しかし，順番が変って「まったくもう，勘弁してよ。」の場合は，副詞の感動詞的用法で使えない。「まったく」と「もう」も意味をそれぞれ調べると以下である。

「まったく」《「副」 形容詞「まったい」の連用形から》
①完全にその状態になっているさま。
②打ち消しの語に伴って，完全な否定の意味を表す。
③ある事実・判断を強調する気持ちを表す。
④（「まったくだ」「まったくです」などの形で）話し言葉で，相手の言葉を受けて，それを強く肯定または否定する意を表す。
⑤（「まったくの」の形で）話題になっていることについて，その通りの，文字通りの，嘘偽りなしのなどの意を表す。

「もう」［副］
①現に，ある事態に立ち至っているさま。また，ある動作が終わっているさま。
②あとわずかの時間で，ある事態になるさま。
③現にある事物・状態などに，同じものを付け加える気持ちを表す語。
④（あとに打ち消しの語などを伴って）同じ事をこれ以上繰り返したくないという気持ちを強調する語。
⑤自分の判断・感情などを強める気持ちを表す語。感動詞的にも用いる。

以上の意味から「まったくもう，勘弁してよ。」を分析すると，おそらく「③＋④」の組み合わせで「本当に＋二度とは」の意味になると推測できる。このように，「まったくもう，勘弁してよ。」の場合，「まったく」と「もう」は元の副詞の役割をするので，感動詞的用法として見なすことはできない。

次に，「本当に＋もう」の場合，語用論的意味では「まったくもう」と同様，話者の呆れた感

情を表しているが，両方元の意味を失う「まったく＋もう」と異なって，「本当に」の元の意味は残っている。従って，現段階では感動詞的用法とは言い難いが，これから感動詞的用法までの推移があると言えよう。

4．韓国語の感情表出型における副詞の感動詞的用法

4.1. 単一副詞

韓国語の場合，この用法で用いられる副詞は「jinjja 本当」「jeongmal 本当」「aju とても」「jjom すこし」「maennal 毎日」がある。

次の例文をみてみよう。

（8）A：이거못놔?

igeomosnwa?

これ　否定-放す（命令）？

（これを放して）

B：사과하고있잖아! 그럼받아줘야하는거아냐?

sagwa-ha-gwo iss-janh-a geureom　badajwoya-haneun-geo a-nya

謝る-連結　ではないか　そしたら　受けてくれる-連結　ないか

（謝っているでしょう。そしたら許してくれ）

A：시끄러워　보자보자하니까　진짜!

sikkeureowobojabojahanikkaigejinjja

うるさい　見る見る　する-理由　本当

（うるさい，黙ってみれば，本当に）

（9）A：안되겠다．다벗어라．

annwoe-gess-da　da　beos-eo-ra

駄目だ-過去-終結（意志）　全部　脱ぐ-終結（命令）

（駄目だ，全部脱いで。）

B：뭐，뭐야?뭐，벗어?이게　진짜!

mwomwo-ya　mwo　beos-eoige　jinjja

何　何だ-終結（疑問）　何　脱ぐ-終結（疑問）　こいつ　本当

（何だと。脱ぐって？　こいつ本当に）

(10) A：야괜찮아?　　너　　왜　　그래?
yagwaenchanh-a　neo　wao　gurae
おい　大丈夫　　君　　何故　　そうする
（おい，大丈夫か？　君，どうした？）

B：놀랬죠!　　놀랬죠!
nol-raess-jyo　　nol-raess-jyo
びっくりする-過去-でしょう　　びっくりする-過去-でしょう
（びっくりした？　びっくりした？）

A：너정말!
neo　jeongmal
君　　本当
（君って本当！）

(11) A：언제는그런　　내가　　좋다면서
eonje-neun　geureon　nae-ga　joh-da-myeonseo
いつ-は　　そのような　私-か　　好きだ-言いながら
（昔はそのような私が好きって言ったじゃん）
B：너란　　놈은정말。
neoran　nom-eun　jeongmal
君という　やつ-は　　本当に
（君ってやつは本当に）

(12) 짜증나니까그만해라진짜
jjajeungna-nikkageuman-haerajinjja
イライラする-から　やめる-終結（命令）　本当
（イライラするから，やめろ）

（8）（9）(10) (11) (12) の場合，副詞「jinjja」「jeongmal」を発話文の最後に置くことで，「話者の怒り」「相手に対する不満」「相手を非難」などの感情を表している。この点は日本語の感動詞的用法に似ているが，日本語と異なる点は，副詞の本来の意味がまだ残っている点であ

る。つまり，韓国語の副詞は感情表出型で用いられる場合，基本的に日本語の「もう」「まったく」のような完全なる脱語彙化現象が起こらない。この相違点を踏まえて，五つの例文を比較してみよう。

（12）と比べると（8）（9）（10）（11）は，すべて述語がない状態である。従って，これらは感情表出型ではなく，述語省略型として見なす見方もあるが，（5）（6）のように後続の省かれた述語部分を簡単に復元することは難しい。理由は副詞と後続の述語との共起制限である。「もう」「まったく」は，後続の述語との共起制限が強い副詞であるため，前後の文脈やシチュエーションなどの情報から簡単に復元することができる。これに対して「jinjja」「jeongmal」は後続の述語との共起制限が非常に緩いため，簡単には復元できない。従って，本来は（8）（9）（10）（11）のような，副詞で終わる言いさし文は不可能であると思われる。つまり，（8）（9）（10）（11）は，述語省略型でも感情表出型でもなく非文であろうと言える。

しかし，（12）のように，述語がある状態の副詞終了文の出現に伴って，非文であったはずの（8）（9）（10）（11）が言えるようになったと思われる。理由は，「jinjja」「jeongmal」の本来の副詞の意味が，副詞終了文では稀薄になって来たからと思われる。つまり，日本語の「まったく」「もう」のように，感情を表す感動詞的用法が増して来たため，（8）（9）（10）（11）では，副詞の意味は若干残っているものの，主には感動詞として用いられるからであると思われる。この主張の裏付けになるのが，「jjom」の使い方である。

（13）A：（話者を困らす，嫌がらす，全ての発話に対して）
　　B：아　　쫌。
　　a　　jjom
　　あー　ちょっと

（14）쫌줘라쫌。
　　jjomjwo-rajjom
　　少し　あげる-終結（命令）
　　（少し　あげてやれ）

（13）の場合は，感動詞＋程度副詞の形で「やめろ」，「自分をほっといて」，「うるさい」など様々な感情を表すことができる。韓国語の「jjom」の原型は「jogeum　少し」という程度副詞であるが，韓国の慶尚道の方言で省略及び農音化されて今の形に定着されているといわれている。従って，（14）のように，元の副詞意味である「少し」の用法と「話者の不満を表す」感動詞的用法が共に現れる使い方もある。また，「jjom」も「jinjja」と同様，感動詞的用法で用いられる場合，元の副詞の用法が稀薄になってきている。従って，次のように，「jjom」「jinjja」は言い換

えが可能である。

(12´) a. 짜증나니까그만해라진짜。
b. 짜증나니까그만해라쫌。

さらに，最近の若い世代は「jjom」と「jinjja」を，「まったく」と「もう」のように，感情を表す際，一語文で使う傾向が見られる。

次に「maennal」の例を見てみよう。

(15) 그사람사장된지 몇년이야? 맨날
geusaram sajangdeoes-ji myeoch nyeon-i-ya? Maennal
その 人， 社長になる-連結（って） 何 年目？ 毎日
（その人は社長になって，もう何年目？）

(16) 가족도없는 사람처럼 왜 밖으로 돌아요? 맨날。
gajok-do eoph-neunsaram-cheoreomwaepakk-euro dol-a-yoMaennal
家族-も ない人-ように 何故 外-で 回る-終結 毎日
（家族もない人のように何故毎日外で徘徊するの？）

(15)(16) は副詞「maennal」を文末に置くことで，「相手を貶す」或は「皮肉」の意味を表している。しかし，「jinjja」「jeongmal」「jjom」に比べると，副詞の本来の意味の「毎日」はきちんと残っている。以上のことをまとめると，韓国語の「jinjja」「jeongmal」「jjom」「maennal」は感動詞的用法で用いられる場合，脱語彙化現象が起こらないので，程度の差はあるが，副詞本来の意味を残している。

以上のことを踏まえて，次は「aju」の場合をみてみよう。

(17) 잘난체는 혼자 다 해요, 아주。
jalnanche-neun honja da hae-yo aju
偉そうに-は 一人で 全部 する ？
（偉そうにしているのが痛々しい）

(18) 자기가 사장인 줄 아나봐, 아주。
jagi-ga sajang-in ju-lana-bwa aju
自分-が 社長-である と 知る-連結-見る-終結（縮約） ？

（まるで自分が社長にでもなったつもりか。）

(17´) 아주, 잘난체는　　혼자　　다　해요。
aju　jalnanche-neun　honja　da　hae-yo
？　偉そうに-は　一人-で　全部　する
（偉そうにしているのが痛々しい）

(18´) 아주, 자기가사장인　　줄　　아나봐。
aju　gagi-ga sajang-in　jul　ana-bwa
？　自分-が　社長-である　と　知る-連結-見る-終結（縮約）
（まるで自分が社長にでもなったつもりか。）

（17）と（18）は副詞「aju」を発話文の最後に置くことで，相手に対する「皮肉」の感情を表している。さらに，日本語の「まったく」「もう」と同様，副詞本来の「とても」の意味は完全に失っている。つまり，「aju」は文末に置かれた場合，他の韓国語の副詞と異なって脱語彙化現象が起こる。これは，日本語の副詞の感動詞的用法と非常に似ているが，相違点もある。日本語の「まったく」と「もう」は文末に置かれた場合のみ，感動詞的用法が働くが，「아주」は（17´）と（18´）のように文頭に置かれた場合も，感動詞的用法が働く。

「aju」を韓国の辞書で調べると副詞と感動詞二つの意味がある。副詞としての意味は「とても」「まるで」「全く」の意味で載っているが，感動詞の意味では「人の得意がる言動をからかう語」と記されている。これは他の韓国語の副詞と異なる点で，今回の考察の中で唯一，副詞と感動詞で辞書に載っている副詞である。

ここからは筆者の推測であるが，恐らく「aju」は最初，副詞のみで使われていて感動詞としての意味は，あとから追加されたと思われる。これと同じ原理で，韓国語の副詞「jinjja」「jeongmal」「jjom」は現段階では，まだ副詞の意味が残っているが，これからは段々推移して「aju」のように完全な感動詞になっていくと思われる。

4.2. 複合副詞

韓国語の場合，「jeongmakl-ro　jinjja」と「ajugeunyang」が挙げられる。

(19) 아　짜증나네　　정말로　　진짜。
a　jjajeungna-ne　jeongmakl-ro　jinjja
ああ　イライラする-終結（感嘆）　本当-に　本当に
（本当にイライラする）

(20) 그 아가씨 완전 누구 닮은거야 아주그냥。
geu agassi wanjeonnugu dalmeun-geo-ya ajugeunyang
その お嬢さん 完全に 誰 似ている-終結（疑問） ？
（そのお嬢さん誰かに似ているね，とても綺麗。）

(21) 오늘도 밖을 보니 햇살이 아주그냥。
oneul-do bakk-eulbo-nigaessal-i ajugeunyang
今日-も 外-を 見る-と 日差し-が ？
（今日も外を見ると日差しがとても眩しい。）

(22) 시합에 이겼으니 오늘도 대낮부터 소주를 아주그냥。
sihap-e igyeoss-euni oneul-do daenass-buteo soju-reul ajugeunyang
試合-に 勝つ-過去-ので 今日-も 昼間-から 焼酎-を ？
（試合に勝ったので，今日も昼間から焼酎を沢山飲む。）

（19）で用いられた複合副詞は「jeongmakl 本当＋jinjja 本当」である。「jeongmakl」と「jinjja」は日本語の「まったく」と「もう」と同様，単一副詞の場合でも感動詞的用法で用いることができる。しかし，日本語と異なる点は，単一の場合でも複合の場合でも，脱語彙化現象が起こらないので，本来の副詞的意味を残しているため，（19´）のように順番を変えても意味はあまり変らない。

（19´）아 정말로 진짜，짜증나네。

これに対して，（20）（21）（22）で用いられた，「aju＋geunyang」は，形態としては述語省略型に近いので，順番を変えることはできない。さらに，複合副詞になると「geunyang」の意味がなくなり，「aju」の意味を強調する「とても非常に」の意味になってしまう。つまり，「jeongmakl 本当＋jinjja 本当」は両方脱語彙化現象が起こらないが，「aju＋geunyang」は「geunyang」の方が完全なる脱語彙化現象が起こり，「aju」は副詞本来の意味で使われている。この点に関しては非規則的であるため，現段階では言及することができない。今後の課題にしたい。

5．まとめ

以上，本研究では実例を基に，日韓語の副詞終了文で見られる，副詞の感動詞的用法について考察した。その結果，以下のようにまとめることができた。

①日韓語において，副詞の感動詞的用法は実際によく使われているが，用いられる副詞は，必ずしも対を成していない。日本語では「もう」「まったく」があり，韓国語には「jinjja」「jeongmal」「aju」「jjom」「maennal」がある。

②相違点として挙げられるのは，日本語では副詞が感動詞的用法で用いられる場合，元の副詞の意味が無くなるのに対して，韓国語では必ずしもそうではない。つまり，日本語の場合，「まったく」と「もう」は脱語彙化現象が起こるが「ちょっと」は起こらない。対して韓国語は，基本的には副詞的用法と感動詞的用法が共存するが，その割合には差がある。

③類似点として挙げられるのは，日韓語では副詞が感動詞的用法で用いられる場合，否定の評価感情を表す場合に限る。

今後の課題としてはまず，もっと実例を採集してさらに正確に考察を進めることである。また，今回の考察で用いた副詞の他にも，感動詞的用法で使用可能な副詞が，両言語であるかを確めたい。

（はい・めいぶん・言語文学専攻）

参考文献

中道真木男（1991）「副詞の用法分類 ── 基準と実例 ──」『日本語教育指導参考書 19　副詞の意味と用法』大蔵省印刷 pp.149-151

鈴木英夫（1996）「『全く』の用法の推移と副詞としての特性について」『国語学論集山口明穂教授　123

渡辺実（2001）『さすが！日本語』ちくま新書

加藤　重広（2006）『日本語文法　入門ハンドブック』研究社

全紫蓮（2014a）「副詞「もう」の意味と機能 ── 明治期と現代の比較研究 ──」『日語日文学研究（日本語学・日本語教育篇）』88-1　韓国日語日文学会 pp.97-120

全紫蓮（2014b）「「ちょっと」の意味と機能 ──〈副詞的用法〉と〈感動詞的用法〉の連続性を中心に ──」『日本学報』101　韓国日本学会 pp.75-89

裴明文（2014）第三回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム　論文集　延辺大学出版社